

「さあ、続いては髭男爵です！ ブレイクした年の最高月収はー!」

と盛り上げるMCに、

「コンビ合わせて、〇〇万円です!」

と声を揃える筆者と相方。すると、

「おとおおー!」「すごい!」

とひな壇がどよめく。

とはいえ、そこに陣取るのは今太閤たる、売れっ

子芸能人の皆様だ。

正直、コチラとしては、(アンタらの方が、いっぱい稼いでるだろ!)とそのリアクションがいささか白々しく映ってしまう。

まあ、その後、重ねて芳しくない現状を告白し、「あからら……」と鼻で笑われるまでが一連の流れなので、心の中で毒づいた件は、ご容赦いただきたい。

最近ほとんど見掛けぬが、かつて、我々一発屋芸人のテレビ番組での役割は、ネタやトークではなく、この「最高と最低の発表」一色となった。

月に二〜三度、レイザーラモンHG、ムードイ勝山、小島よしお、ジョイマンetc、似たような境遇の面々が雁首揃えて、落ちぶれ具合を披露し続けること数年間。

……何が何やらだ。

とにかく芸能界は他人様の懐事情が大好き。

かくいふ筆者も、ギャラの多寡のみならず、昔家賃「八〇〇〇円」のボロアパートに住んでいたとか、その後引越したのが「月二五万円」のマンションだとか、長女(現在小六)の塾の夏期講習代が「二〇万円」でしんどいとか、あらゆる額面をネタ化し、ひ



絵・江口修平

## 貴族とドルと円

山田ルイ 53 世

たすら身を削ってきた。

そんな男が、とある「お金の話」で、「えー!? マジでー!!」と驚く側に回る日が訪れるとは思わない。

先日、書斎で書き物をしていると、

「また、値上がりした……」

とため息を吐きながら登場したのは妻である。

昨今の物価高は筆者も憂いているところ。

すわ、野菜かガソリンかと身構えたが、彼女が手にしていたのはシルクハットだった。

聞けば、以前は一万五〇〇〇円で買ったものが、なんと二万五〇〇〇円になったそう。

自称貴族の漫才師にとってシルクハットは、いわば、キャラの根幹、命綱。

常に五〜六〇常備するように心掛けており、毎年三コは新調している。

(……これからずっと、プラス一万円!)

呆然とする筆者の目に飛び込んできたのは、タグに書かれた「MADE IN New York」の文字である。

知らずに愛用してきたが、輸入物だったのか……と意識した瞬間、「……円安の影響?」との考えが浮かび、絶句した。

経済ニュースとして耳にはしていたものの、ドル円といった為替相場が、日本のコスプレキャラ芸人を直撃するとは想定外だ。

大体、シルクハットに家計を圧迫されるのはウチを除けば、マジシャン宅くらいだろう。

「タバコとお酒を減らします……」

と妻を宥めたが、いやはや、貴族の維持費もバカにならない。

やまだ・るい・ごじゅうさんせい●芸人。1975年生まれ。兵庫県出身。「ルネッサンス」のフレーズと「貴族のお漫才」でお馴染みのお笑いコンビ・髭男爵のツッコミ担当。6年間の引きこもり生活を綴った著書「ヒキコモリ漂流記完全版」(角川文庫)ほか、「一発屋芸人列伝」(新潮文庫)、「パパが貴族」(双葉社)などがある。NIKKEI プラス1「なやみのとびら」コラム連載中。

